資料４－２

第11回GEOSSアジア太平洋シンポジウム　開催結果

2018年11月30日

文部科学省 研究開発局 環境エネルギー課

文部科学省 MINISTRY OF EDUCATION, CULTURE, SPORTS, SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

第11回アジア太平洋シンポジウム（その1）

1. 期　間：　平成30年10月24日(水)～10月26日(金)
2. 場　所：　京都テルサ
3. テーマ：　“Strengthening Regional Cooperation through AOGEOSS for the SDGs, Paris Agreement and Sendai Framework“
4. 主　催：　GEO事務局、文部科学省
5. 出席者：　171名
   日本、豪州、カンボジア、カナダ、中国、フランス、インド、インドネシア、韓国、モンゴル、ネパール、ニュージーランド、ロシア、スペイン、スリランカ(Palitha Range Bandara (パリタ・ランゲ・バンダーラ) 灌漑・水資源管理省国務大臣を含む)、スイス、タイ、フィリピン、米国、英国、ベトナム他21か国及びアジア太平洋地球変動研究ネットワーク(APN)、他

1. 概　要：

(1) 基調講演

- 松尾隆 アジア開発銀行駐日代表事務所駐日代表より、「SDGs、パリ協定、仙台防災枠組とアジア開発銀行の取組」をテーマとした講演が行われた。

(2) 新興ケーススタディ：メコン川プロジェクト

〔登壇者〕 小池俊雄氏 (ICHARM)、Yongseung Kim氏 (韓国航空宇宙研究院(KARI))
〔概要〕
- メコン川プロジェクトの概要説明、及び今後の見通しについての説明があった。
- 各タスクグループの積極的な参加、及びAOGEOSS内の連携が呼びかけられた。

(3) 特別セッション1：分野横断的課題について

〔テーマ〕「データ共有とAO-Data Cube／ユーザーエンゲージメントとユーザーコミュニケーション」
〔モデレータ〕 David Hudson氏 (Geoscience Australia)
〔登壇者〕 Gilberto Câmara氏 (GEO事務局)、Qinhuo Liu氏 (RADI)、小池俊雄氏 (ICHARM)、Andy Steven氏 (CSIRO)
〔概要〕
- Hudson氏より、AOGEOSSのデータ共有について報告があった。
- 小池氏より、ユーザーエンゲージメントとユーザーコミュニケーションに関する報告とともに、日本が独自に取り組むDIASの事例が紹介された。
- 登壇者は各活動の紹介を行い、アジア・オセアニア地域のキャパシティビルディングが重要であるという意見も述べられた。
- Câmara氏より、AOGEOSSイニシアティブの充実した活動を評価するとともに、データの公開についても期待する旨が述べられた。

(4) 分科会

- 「GEOSSアジア水循環イニシアティブ(TG1)」「生物多様性観測網ネットワーク(TG2)」「GEO炭素・GHGイニシアティブ(TG3)」、「海洋・沿岸・島嶼(TG4)」、「農業と食料安全保障(TG5)」「環境モニタリングと評価(TG7)」の各分科会が開催され、TG7を除き、我が国の研究者が分科会共同議長を務め議論を牽引した。
  また、TG1とTG5は3日目に合同セッションを開催した。
- 議論結果は「京都宣言2018」に反映された。

第11回アジア太平洋シンポジウム（その2）

(5) 成果志向GEOSSに向けた戦略

- Gilberto Câmara GEO事務局長による講演が行われた。
- 世界は中国、インド、韓国、日本等が保有するデータを必要としている旨が述べられ、データを他国のために活用するよう呼びかけがあった。
- Google Earth Engineのように、誰でも地球観測データを利用できるようなプラットフォームが必要とされていることについても言及があった。

(6)特別セッション2：分科会活動の総括

〔モデレータ〕村岡 裕由氏 (岐阜大学)

〔登壇者〕

TG1共同議長：Richard Lawford氏 (Morgan State University)
TG2共同議長：矢原 徹一氏 (九州大学)
TG3共同議長：三枝 信子氏 (NIES地球環境センター)
TG4共同議長：安藤 健太郎氏 (JAMSTEC)
TG5共同議長：Thuy Le Toan氏 (CNES-CNRS-Université Paul Sabatier)
TG7共同議長：Qinhuo Liu氏 (RADI)

〔概要〕

- 村岡氏より、以下の３つのテーマについて問いかけがあった。
  ① タスクグループが優先連携３分野に貢献するための優良事例や新たな取組はあるか
  ② タスクグループ間の連携によって、どのような成果の創出が期待できるか
  ③ 国、地域を越えた地球観測のマルチプラットフォームや能力開発に向けて、どのような課題、取組、優先事項が考えられるか
- 登壇者より、政府やNGO等との地域に根ざした協力や、国際会議等のグローバルに意見を収集する事例が紹介された。
- 議論を通じて、ステークホルダーとの連携や分野を超えた協力が必要であるという共通認識が得られた。

(7)「京都宣言2018」の採択

- 次回シンポジウムに向けて、以下について合意する「京都宣言2018」を採択した。
  ◇ 優先連携３分野（SDGs、パリ協定、仙台防災枠組）及びメコン川流域をターゲットとした新興ケーススタディについて、各タスクグループの成果や今後取るべき行動
  ◇ 分野横断的事項に関して、ライセンスデータのオープン化、基本的な前処理済みのデータ（Analysis Ready Data: ARD）の配布、能力開発や知識共有に向けて更なる努力を行うこと

(8) 次回シンポジウムの開催アナウンス

- 第12回GEOSSアジア太平洋シンポジウムは、2019年にオーストラリア（キャンベラ）にて開催予定。